



発表タイトル

2013/11/21 戦略提言シンポジウム

# 『地域の自然エネルギーを活用して 合併後の元気で持続可能な中山間地域を！』

プロジェクト名：環境に優しい移動手段による持続可能な中山間地域活性化

カテゴリー：I

研究代表者名：大日方聡夫

(所属)：(NPO法人 まめってえ鬼無里)



## 合併後の鬼無里地区(旧鬼無里村)が抱える課題

- ①若者の地区外流出と皆無に近いI/Uターン者
- ②高齢化・過疎化・耕作放棄地増加・里山荒廃
- ③化石燃料依存社会
- ④合併による「行政の周辺化」で低下した住民自治意識  
と地域ガバナンス力



## 課題に対処するための研究開発事業とその成果

- ①「LLP・鬼無里薪ステーション」の立ち上げとその波及効果
- ②人と人をつないだ「鬼無里・食の文化祭」
- ③奥裾花自然園電力の小水力化問題
- ④鬼無里モデルの構築と住民自治協議会の自己改革

【仮説】鬼無里地区が直面する課題解決の「鍵」は、  
地元に眠る自然エネルギーの活用にある。





# 「LLP・鬼無里薪ステーション」の立ち上げと波及効果

## 『LLP・鬼無里薪ステーション』

- 仕事起こし
- 脱化石燃料
- 地元の自然エネルギーみえる化効果  
(脱化石燃料化への推進役。新しいアイデアの源泉になる)



☆地区外への波及効果

→「iitoki トランジション長野地域協議会」



# 人と人をつないだ『鬼無里・食の文化祭』



大根びき



浸し豆



かばあちゃんしのえごま煎

## 地域コモンズ（共同体）形成の接着剤

- ・食がとりもつ人間関係
- ・気候と保存食、風土と郷土食の伝承
- ・歴史、文化と食



『鬼無里・食の文化祭』（PJ）から  
『鬼無里めぐり』（住自協）へ





# 奥裾花自然園の小水力発電問題

平成の大合併による「行政の周辺化」の典型



頓挫した奥裾花自然園の小水力発電計画

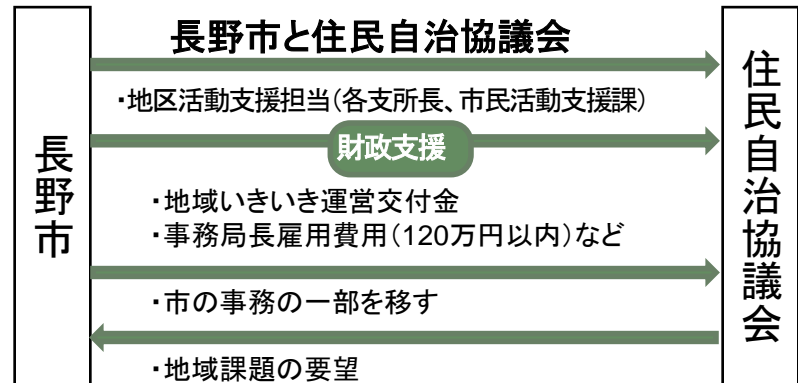


市からの新たな提案

再生可能エネルギー導入後の奥裾花自然園



無電化地域である奥裾花自然園を複数の再生可能エネルギーの導入により、安定した電力供給システムを構築するとともに、「観光利用」、「見える化」、「見せる化」することにより、訪れたいくなる、訪れて「学び」、「楽しむ」ことのできる施設とします。



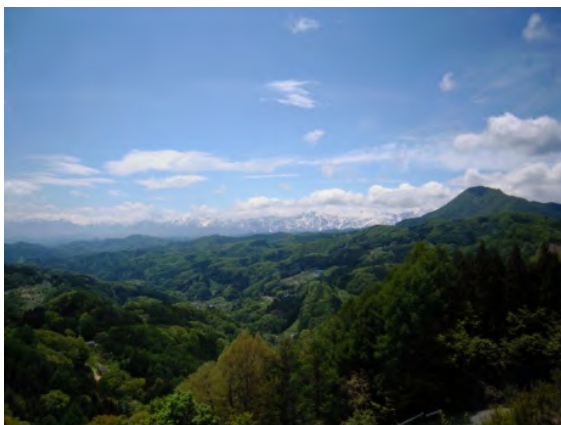
住民自治協議会と行政 縮まらぬ距離  
官民ともに歩む姿勢を



# 「行政の周辺化」対策と『鬼無里モデル』

＜地域ガバナンス力を保障するモデル＞

- ◆地域の自然エネルギー資源の活用による地域おこし
- ◆自治意識と自治を保障する資金(FITの利用)
- ◆CO<sub>2</sub>削減に寄与
- ◆新しい価値観



おわり